

科目	在宅看護の実際				
時間数	2単位 60時間 1年:0.7単位 20時間 2年:1.3単位 40時間	授業方法	講義	授業時期	1・2年
講師名	③小野緑 ③佐竹京子 ①高橋美由紀 ③藤田景子				
実務経験	③看護師(医療機関等) ①保健師(在宅介護支援センター等)				
ねらい	地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場での看護活動を理解する。 (地域で生活しながら療養する人々および障害を持ちながら生活の人々と、その家族を理解し、在宅療養を支える看護活動を理解する。←従来のねらい)				
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活することを理解し、居宅において生活を継続していくための支援を考える。</li> <li>2. 在宅で療養する人々および障害を持ちながら生活する人々を理解する。</li> <li>3. 対象となる家族の形態、機能の特徴を知り、家族看護の必要性を理解する。</li> <li>4. 訪問看護サービスの種類や法的根拠を踏まえ、訪問看護の主な活動を理解できる。</li> <li>5. 在宅看護過程の展開方法について理解できる。</li> <li>6. 地域で療養する人を支える社会資源の種類や関連職種を知り、連携の必要性と連携方法について理解できる。</li> </ol>				
授業計画					
回	内容				
1～5	看護の対象の理解～人間の「暮らし」の理解				
	暮らしを支える社会の仕組み① 現在の日本の現状と社会保障・社会福祉の概略				
	暮らしを支える社会の仕組み② 地域包括ケアシステムとは				
	暮らしを支える社会の仕組み③ ソーシャルキャピタルとは				
	演習:暮らしの場である「地域」を理解するための方法				
6～7	別子山 地域探索				
8～9	地域探索のまとめ・発表				
10	中間評価				
11～19	在宅看護を支える訪問看護				
	在宅ケアの連携とマネジメント				
	在宅ケアを支える制度と保障制度と社会資源				
	訪問看護の実際				
20～24	在宅における終末期看護				
25～30	退院支援について				
	退院前カンファレンス				
評価方法	その時間数の3分の2以上の出席者に限り受験資格を与える。 各講師が各々の担当領域について終講時に筆記試験を行った結果及び平素の学習状況を総合して100点満点で評価する。 60点以上を及第点とする。				
教科書	ナーシンググラフィカ(21)在宅看護論 地域療養を支えるケア:メディカ出版 写真でわかる訪問看護の実際:インターメディカ				